

令和7年度 ゼロカーボンシティ会津若松推進ネットワーク総会 会議要旨

日時 令和8年2月13日(金) 14時00分～15時30分
場所 会津若松市本庁舎1階 市民ホール・正庁
出席者 対面参加15名、オンライン参加10名
事務局：市民部長、市民部副部長、環境共生課長、環境共生課員5名

令和7年度 ゼロカーボンシティ会津若松推進ネットワーク総会

(次第)

- 1 開 会
- 2 会長あいさつ
- 3 プレゼンテーション及び意見交換
 - (1) プレゼンテーション(各15分)
 - ① 会津若松市
 - ② 会津エネルギーアライアンス 様
 - ③ 株式会社ヨークベニマル 様
 - ④ 株式会社三義漆器店 様
 - (2) 意見交換(25分)
- 4 閉 会

■開会(進行：事務局(環境共生課))

■会長あいさつ

本日はゼロカーボンシティ会津若松推進ネットワーク総会にご出席いただき、誠にありがとうございます。

また、日頃から本ネットワークの取組に対し、ご理解ご協力を賜り、心より感謝申し上げます。さて、本市では、令和3年に「ゼロカーボンシティ会津若松」を宣言し、令和5年度に、市民・事業者・行政が連携し、ゼロカーボンシティの実現に向け、取り組むことを目的に本ネットワークを設立しました。

昨年度は、大雪のため書面開催となりましたが、これまでの間、アクト・エネルギーワーキンググループや、会津アピオ脱炭素実行委員会に定期的に参加するなど、市民や事業者の皆様とともに、脱炭素の取組の具現化に取り組んでまいりました。

本日の総会では、脱炭素に取り組む団体・事業者の皆様との取組について、会員の皆様と共有し、意見交換を行うことで、今後の具体的な行動や課題解決につなげるなど、脱炭素の取組の更なる推進を図ってまいりたいと考えております。

会員の皆様におかれましては、市民・事業者・行政が連携・協力し、ゼロカーボンの取組をさらに推進できるよう、ご意見ご提案などいただきたくお願い申し上げます。

結びに、世界的課題である地球温暖化への対策には、全ての地域における脱炭素化が必要不可欠であります。本ネットワークの趣旨に賛同し、ご参集いただきました皆様に改めて感謝いたしますとともに、より一層のご理解とご協力をお願い申し上げ、ご挨拶いたします。

■プレゼンテーション及び意見交換

ここからは、議長を会長の室井市長に務めていただいた。

○プレゼンテーション(各15分)

- ① 会津若松市
- ② 会津エネルギーアライアンス 様
- ③ 株式会社ヨークベニマル 様
- ④ 株式会社三義漆器店 様

○意見交換(25分)

【幹事団体A】

住宅は、新築でもリフォームでもこの会議に通ずるところがありまして、断熱性・気密性の良い住宅、いわゆる低燃費の住宅を作る流れになっております。国でも2026年も引き続き大きな補助金があり、窓の入れ替えなどにも補助が出るため、私たちにとっても仕事につながり、地球にも商売人にも優しい事業だと思っています。

【サポート団体A】

今回参加させていただいた趣旨は、環境教育において、子供たちができる範囲でのリサイクル等を行っています。マンネリ化している部分があり、何かきっかけが欲しいと考えたためです。市や企業の皆様の取り組みを学校に落とし込むことで、子供たちの環境に対する意識を高め、主体的に動けるような学校体制を作りたいと考えております。また、将来環境に対して自分たちが何ができるかを見つめるきっかけにしたいと思っています。本日のお話は非常に参考になり、子供たちや学校に下ろせる良いお土産ができたと思っています。持ち帰らせていただき、積極的にアプローチできるような指導・支援を継続してまいりたいと思います。

【幹事団体 B】

日頃より脱炭素先行地域の推進にご協力いただきありがとうございます。進めるにあたりご苦労もあるかと思いますが、乗り越えてやっていただいていることに感謝申し上げます。本日の事例ですが、特にヨークベニマル花春店さんの取り組みは素晴らしいと感じました。店舗のカーボンニュートラルにとどまらず、住民の意識変革に取り組まれている点が非常に良いと思いました。全国 249 店舗あるとのことですので、他店舗へも横展開していただければ幸いです。

【サポート団体 B】

この素晴らしい活動をいかに広げていくかが今後の課題だと感じました。企業、特に中小企業の受け止めとしては、「脱炭素」というハードルの高い言葉よりも「脱炭素経営」という言葉が響くと思います。省エネやエネルギーの見える化が経営につながるという視点で、行政にもバックアップしていただくと進むのではないかと感じました。また、運用で減らせる部分もたくさんあります。弊社でも資金的に厳しい中、冷ケースの温度調整や夜間の機器停止、デマンド装置によるピークシフトなどに取り組んでいます。こうした事例共有もできればいいと思います。最後に市民としてですが、私は今、電気自動車に乗っていますが、今回の市の提案（補助金拡充等）は、電気自動車の支援がまだ薄いと感じています。県の補助金も少なくなったので、その分市の補助金を頑張っていただきたいです。また、公用車の充電インフラを昼間は市民や観光客に開放し、夜間に公用車を充電するといった、お金をかけずにインフラ整備をするような取り組みも期待したいです。

【市】

電気自動車の話がありましたが、市役所でも既に 23 台か 25 台ほど電気自動車が入っており、比率も高まっています。なおかつ、有料にはなりますが、本庁舎の駐車場に急速充電器を作りますので、ぜひご活用いただきたいと思います。

【サポート団体 C】

弊社は昨年設立し、本業の IT・IoT 開発事業を行いながら、昨年から再生可能エネルギー関連の事業にも取り組んでいます。まだ実績はございませんが、今後地域にお役に立てるよう頑張りたいと思います。ご指導のほどよろしくお願いいたします。

【サポート団体 D】

今日は貴重な発表を聞かせていただきました。弊社はご存知の方も多いかと思いますが、リサイクル業を営んでおりまして、日常生活のごみの削減や、資源物の無料回収を行っています。市に質問が 2 点ほどあります。水素自動車の補助金は何台程度を見込んでいるのかということと、脱炭素先行地域のエリア拡充はあるのかを教えてくださいたいです。

【市】

水素自動車の補助金につきましては予算の計上前なので明確にお答えすることはできません。先行地域については 5 年間に限られた取組ですので、そこでの知見を全市の脱炭素化へ生かしていきたいとの考えがありますので、先行地域が終わる令和 10 年終了後、そのような意見をもとに理想的な仕組みにしていきたいと考えております。

【サポート団体 E】

弊社では、ごみの分別等や環境フェスタへの出店等、できることから環境配慮を行っており、省エネやリフォーム、カーボンオフセットなどの提案も行っています。燃料電池自動車の水素インフラについて市内で研究しているところであります。

【サポート団体 F】

先行地域の補助事業では、発電事業者として参加中です。多方面、様々な分野における各社の取組に関心を持ちました。環境意識の高い県内トップクラスの企業が多いと感じております。裾野を拡げた事業を展開したいと思います。

【幹事団体 C】

全市での脱炭素に向けた取組が実装しているということが理解できました。オプトインによる情報共有は非常に難儀なことですが、エネルギーアライアンスの取組は素晴らしいと感じました。

【幹事団体 D】

経済情勢や物価高への対応など、中小企業の脱炭素への取組が難しいと感じました。一方、事業者の脱炭素に関する関心は高く、県の空調設備等の補助金に関する取組の問い合わせも多い。補助金などの政策誘導により、事業者の意識を変えることにつながるため、金額の大きいものではなく、小さな金額のものも推進して広報してほしいと思います。

【幹事団体 E】

太陽光発電では住民反対があつて実施できないことがあつた。地元外の業者による無責任な対応など太陽光発電に関する誤解が多いと感じます。市民の誤解解消のためには対話が必要であり、地元、景観を大切にしながら、きめ細やかな説明をしてほしいと思います。住宅用の 0 円ソーラーについて利用がないことが気になるが、今後、広報をしっかりとしながら、進めていってほしいです。太陽光発電は、藤棚式の活用も検討してほしい。

【幹事団体 F】

福島カーボンニュートラル実現会議でご協力いただいております。市内の脱炭素化、ならびに県内の脱炭素化の推進を図っていきます。

【まとめ】

やり続けること、それぞれが取り組めることに取り組んでいくことが重要であります。0 円ソーラーに関しましても、耐荷重等の問題もございますが、町内会のご協力がほしいです。全市での再エネ利用について盛り上げていきたいと思っております。

■閉会（事務局）